

ふれあいのまち



松原かわら版

世帯数 1,198 戸
人口 3,005 人
高齢化率 26.3%
(令和元年 6 月 1 日現在)

時計台コンサートは 雨のち晴れ



前月に引き続き6月15日の土曜の夕方、ヴァイオリンとピアノによるクラシック音楽のコンサートを開催しました。当日はあいにくの雨で、松原モールの時計台ではなく松原地区公民館での演奏会となりましたが、クラシック音楽の多彩なレパートリーを奏でるヴァイオリンの音色に雨音も静かな彩を添えてくれました。

このコンサートは、みんなが楽しく集える場所として松原モールが復活し、自慢できる場所となることを目指して行っています。さらに、時計台の壊れてしまった「からくり人形」を修復したいと思っ

す。そのため、コンサートは飲み物をセットにして有料で実施して、収益を積み立てています。賛同していただいた方の中には、寄付をしてくださる方もいらっしゃいます。しかし、松本市が修理業者からとつてくれた費用の見積もりは驚くような金額で、百年かかっても捻出できる額ではありませんでした。

そんな逆風の中、様々な動きが生まれています。電気やメカの制御に詳しい人達からは「自分たちで直せるか詳しく調べよう」とか、「何とか有利な補助金を得られる方法を考えよう」、さらに「工業高校生に手伝ってもらおう」「修理は手伝えないけど、毎土曜日の朝やっているモールの美化活動に参加しよう」など、様々な動きが始まりかけています。頼もしい応援です。これから、温かい目でモール活性化への応援をお願いします。

(松原モールぷろじえくと)

人権講座 戦国大名の軌跡



7月1日、松原地区公民館に集合し、戦国時代の領主の一人、武田信玄公を尋ねて山梨県の武田神社と甲斐善光寺を巡る講座に参加しました。

現地のガイドさんの案内で今年4月にオープンした信玄ミュージアムを訪れ、武田氏三代信虎、晴信(信玄)、勝頼の戦いによる生涯の説明をパネルで受け、武田神社(武田氏館跡)に向かいました。館は戦いを意識して高台の三方を山に囲まれた場所にあり、三代にわたり生活の場所全てが武田神社にあったと言われています。車中で公民館長による信玄公に関する説明を聞いていたので、より理解しやすかったです。昼食後、帰路に向かい甲斐善光寺にお参りし、散策を楽しみました。

前日の雨が上がり、曇り空の中、日焼けを気にすることなく、楽しい旅でした。

まじばら(の)まつり



【5月18日】まじばらウオーク20人が参加し、みんなですく汗をかきました。



【5月26日】救急救命講習会

【6月6日】有志による中央公園と松原モールの池の清掃



【6月16日】岩波書店から本の寄贈
町内公民館に児童書の寄贈を受けました。みんなで大事に読みたいです。



【7月4日】ふれあい会食会



第10回 町会交流 スポーツ大会

梅雨の貴重な晴れ間に松原地区恒例の町会交流スポーツ大会が開催されました。今年度は一部会場を変更しましたが、昨年並みの200名を超える参加者で大いに盛り上がりました。競技の中で特に印象に残ったのは卓球の子供達のプレーです。卓球台から少し顔が出てくるくらいの子供の強烈なスマッシュにとても驚かされました。来年には東京オリンピックを控えているなかで、この松原でもスポーツ熱の高まりを感じました。

◆大会結果

総合優勝	1町会	総合2位	7町会
総合3位	2・3町会	総合5位	5町会
総合6位	4町会	総合7位	6町会

◆競技結果

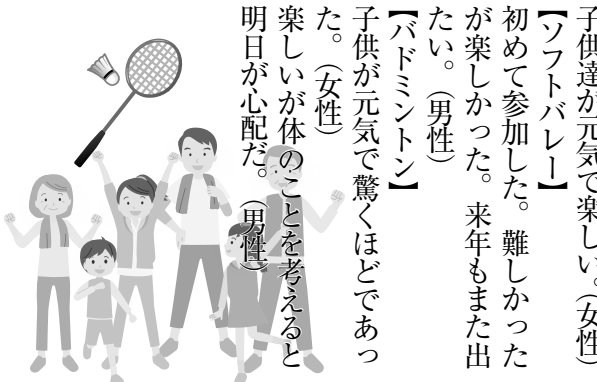
ソフトバレーボール	優勝	7町会
卓球(ラージボール)	優勝	7町会
マレットゴルフ	優勝	1町会
バドミントン	優勝	5町会

行われ、約120名の参加者が親交を深めていました。沢山の方から温かい言葉をいただき、大会を通して掲げていた、「地域の皆様と楽しく汗を流し、交流を深める」という、私達の目標も達成することができました。ご参加いただいた皆様、運営に御尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。(体育協会会長)

【卓球】
去年に比べ子供の技量が上がりビックリした。(女性)
選手も応援者ももっと欲しかった。声援が少なくてさみしい。(男性)
楽しかった。でも負けて悔しかった。(小学生女子)

【ソフトバレー】
子供達が元気で楽しい。(女性)
初めて参加した。難しかったが楽しかった。来年もまた出たい。(男性)

【バドミントン】
子供が元気で驚くほどであった。(女性)
楽しいが体のことを考えると明日が心配だ。(男性)



花から素敵なお礼が…
第36回全国都市緑化信州フェアのハンギングバスケットコンテストで、3町会の槇澤洋子さんが(公財)都市緑化機構会長賞を受賞しました。



「さわやかな初夏 彩りの里」

5月27日の新聞に福祉事業者認証の記事があった。介護人材の確保のため、働きやすい環境づくりや人材育成に力を入れる事業者を認証する制度で、長野県では2事業者が認定され、そのひとつとして松原地区内の「おひさま」が紹介されていた。事務長の雪村さんによると、早くから「働きがいのある職場」を目指して週休2日制や、研修制度を取り入れ、残業は平均2時間以内/月になっているとのこと。実際、職員の方が明るく入所者の方に接していることが印象的だった。このところが毎日のように高齢者の運転の事故が報道されているが、筆者も含め高齢者であることに後ろめたさを感じるようになっていないでほしい。そのためにも高齢者と接することによりがいを感ぜられる「おひさま」のような事業者が増えることを期待したい。(編集委員)



住宅型有料老人ホーム 「おひさま」訪問

コラム 北の旅人

この時期になってくると、小学校の新一年生も学校に慣れて通学のペースも良くなりつつ有る今日このごろ。最近の運転マナーの悪さは、見るに耐えがたいものがある。小学生に道路を横断させる為、横断中の旗を上げ、歩行者を誘導して中央まで進んでいるにもかかわらず、旗の先を徐行もせず走り抜ける若い女性の運転する車。小学生が横断しようと16メートル道路の交差点に近づいているのにそれを見て徐行する素振りも見せず、逆に加速し目を逸らして住宅地では考えられないスピードで通り抜けようと若夫婦。小学生はどんな動きをするかわからないのに(事故が起きたら責任とれるのか!)。幅の広い道路に出る時一旦停止もせずそのまま走行していく若い主婦。道路を歩いていると追越しそのまま方向指示器も出さず脇道に曲がっていく車。歩道があるのに車道の中央を横になり話をしながら歩き続ける大人達。そして、県外者に不評な松本走り。自分の知らない間にマナー違反をして周りの人に不快な思いをさせているかもしれないと思うと反省させられる。人のふり見て我がふり直せ」を実行中。(編集委員)